

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域社会の一員としてイベント等に参加している。		今後もイベントに参加していく。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の暗唱や社内研修で共通認識に努めている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ご家族へは「たより」を送り、来られた時に状況を説明している。自治会活動への参加。		自治会員として、自治会活動に参加させてもらっている。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の商店に入居者の方と一緒にいたり、散歩の時に挨拶をしている。		近隣・商店の方々にも、当ホームのご理解を頂ける取り組みをしている。(芸能ボランティア、雪かき等…)
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のイベントに参加している。自治会の集まりにおいてもホームの事を話したりしている。		今後も積極的に参加していく。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近くの独居者の生活支援、情報を発信している。		安否確認等、地域で安心できる支援を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全体で理解し常に、改善していく様に取り組んでいる。		スタッフ同士の相互理解が必要不可欠、常に良い改善策が見つけれられる様に話し合い、取り組んでいく。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通じ、理解を得る様にしている。		外部の方の参加によって、相互理解を深めるきっかけになると思うので、今後も忌憚ない意見を聞いて行きたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事あるごとに、広域連合とは情報の共有を行っている。町とはパートナーとして認識を持っている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	本人の意思を尊重し、権利擁護の情報を発信し、支援している。家族の希望があれば活用する。		権利擁護の必要性を感じているが、まだ浸透しているとは思えないので今後、学習の機会を持てるよう取り組む。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修に参加や、委員会で情報を共有し防止に努めている。		外部の研修に参加しているものの、全体の問題として捉えていない部分もあるので社内全体で考えていかなくてはならない。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時以外でも来設された時に、十分に説明し理解を得ている。		理解されての契約ではあるが変更したり、問題ができた時には話し合い、特に相互理解に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の不満等苦情は、苦情処理簿等にて対応している。		言動の食い違いで相手を不愉快にさせてしまう苦情は相互理解されていない場合が多いため、再度話し合いの場を持つ取り組みをしている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	請求時や面会時、「たより」の発行等で常に報告するように努めている。		毎月の「たより」の発行。請求時の近況報告。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進委員会を2ヶ月に1度行っております。		委員会を通じてホームを理解して頂き、地域との架け橋となるよう働きかける取り組みをする。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングを頻繁に行い、運営者への要望などを言える場を設けてくれる。		運営者や管理者はできるだけ目線を下げ、職員が意見や提案を云える環境づくりに取り組んでいる。(口頭で言えなければ無記名でも意見が述べられるようにする。)
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態や職員の勤務状況について対応している。		食事担当職員の導入。利用者のケアに対応できる時間を確保している。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動については利用者を第一に考え、チームケアが出来るように努めています。		異動は出来るだけしなくてすむように考えているが、職員の向上心を養う意味で行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	社内研修、社外研修を通じ育成に力を入れている。	介護福祉士の資格取得などに努めている。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	研修会に参加し、サービスの質の向上を目指し、意見交換している。	実習、研修の受け入れを行っています。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	新年会等、行事毎の反省を含めたお疲れさん会を開いている。	職場でのストレスを引きずらないよう仕事での問題、職員間での問題は、必ず全体の問題としてとらえ、話し合うようにしている。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	月1回の定期幹部会議を開いている。	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	相談から利用までどう対応する事が本人、家族にとって一番良いのかを共に考えている。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	23番と同様、家族と十分に話し合っている。	グループホーム利用が絶対的住み家ではない事を説明する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム入居だけが暮らし方ではなく、在宅での生活の継続の可能性についても話し合っている。		相談に来られた時は、すでに両方疲れたきった状態のことが多く、まず話を傾聴し、本業のあるべき姿を取り戻すためにサポートする。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者の状況に応じて適時に応じた対応を取っている。		人によっては練習のショートステイもある。担当スタッフと関係制をつくりあげる。困っている事を早く知る。知りえた情報から読み取り安心した環境を提供する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	若い時の話の中で色々教えてもらう事。		実体験を通じ本人の五感を、生かすケアに努めている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	我々は家族ではなく家族には家族の役割がある事を、説明し面会の機会を多くするよう話している。		行事等は必ず家族の参加を求めて、一緒に楽しむ場を提供している。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人、家族より、これまでの生活歴を聞き理解を深める。		傾聴し尊厳を守り、家族関係の再生のサポートをする取り組みをする。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	趣味や宗教、友人等、本人がつちかってきたものを尊重する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	レクリエーションや毎日の体操などで顔見知りの関わりをしている。		全員が参加し孤立しないよう努めている。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	これまでのご家族との交流は現在進行形であり、今でも大切にしている。行事等の参加もしていただいている。		今後も信頼関係を、無くさないよう努力して行きたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者第一をモットーとして努めている。		本人の希望は、ほとんど叶えるように努めている。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人や家族からの情報をサービスに活かしている。		利用者の話を日常的に聞いてあげたいと思います。これまでの生活を崩さずに、生活してもらえよう取り組んでいる。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	無理の無いよう本人にとって、安心した場となるよう支援している。		一日の体調を把握するために、バイタルチェック等を行い表情、感情面での起状を読み取り、その人が生活しやすいサポートをする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なモニタリングと、本人の希望を入れたケアプランに成るよう努めている。		ケース会議で作成したケアプランを発表、意見交換をし決定する。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	2ユニットになってから少しずつではあるが、話し合いを多くする事で介護計画の見直しが、スムーズに実行出来るようになってきた。		介護支援専門員との交換を多く持つよう話し合いをしている。
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	月4回のミーティングの中、ケア・カンファレンスをし、日々の様子・変化の情報を共有している。		利用者の日々の様子、気づきなどは、スタッフの申し送りで共有している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	入院などで空き部屋がでた場合、本人や家族の状況で柔軟な支援をしている。		空き部屋が無くてはショートステイ、が使用出来ずなかなか難しい、ニーズに応えるようにはしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	地域の人達との交流、ボランティア(清拭、雑布等縫い物)行事等の手伝い、草取り、救命救急指導研修、避難訓練の講習等、文化祭、映画鑑賞等の参加。		今後も地域の人達の交流、ボランティアの方々の協力を得て行きたい。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>			
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	法人代表又は管理者が、地域会議に参加。情報交換をしている。権利擁護については社会福祉協議会と連携をとり必要に応じて活用。		現在当ホームでは利用している方はいませんが、今後はもっと広く活用しやすい方法を考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の往診、緊急時への相談・対応いつでも連絡をし、管理支援をしてもらっている。		ケース検討会議に医療職の参加を求めてゆく。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	浦河日赤、静内石井病院、山田クリニック等、受診の支援ができています。		支援体制が出来ているので、職員は安心して介護に打ち込める。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホーム内の看護師と利用者の日々のバイタルも含め、体調の変化の事を話しアドバイスしてもらっている。他の医療機関の看護師も必要に応じて対応してくれている。		利用者の体調の変化がある時は、看護師がいるので安心できる。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院された時には、出来るだけ病院へ面会に行くようにしている。病院、家族等の情報交換が出来る様にしている。		常に早期に退院できる体制を整えている。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ターミナルに向け医療、家族等と連携し対応を考えている。		かかりつけ医も、終末期にはよく説明してくれている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医、家族、職員が一丸となって、悔いの残らない介護体制に心がけている。これまでほとんど家族の理解を得ることができてきた。		死を受け入れることについては、利用家族にも理解同意のもと、居間にベットを置いて全員で見守る場合もある。今後も過信せず努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人、家族を交え十分な話し合いを重ねる事で、本人の不安を軽減するような取り組みをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	大きな声で対応しない。		大きな声で対応しないよう側で、ゆっくり話そう努めている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	耳の遠い人には耳の側でゆっくり、はっきり話し意思を伝える。		出来るだけ本人が決定できる選択肢を提供していく。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合を押し付けないようにしている。		押し付けないようにしてはいるものの、結果はよりよく進まない事が多い。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	出来る限り本人の希望にそえるよう努めている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	その人に合った事や出来る事をして頂いている。		やりたい時にして頂く、強制せず自然体で共有している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の体調の状況に合わせた対応をしている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄シートをつけ2時間～2時間半ぐらいのパターンで排泄のリズムにしています。		排泄シートは大切なので、これからも続け体調管理をしたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望で入浴する事もありますが、職員側の都合で入って頂く事が少しあります。		時間帯など本人の希望に沿うことが出来るよう努めたい。入浴をしたくなるような声掛けをする。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの状況に合った対応をしている。(体操、運動、廊下での歩行)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日、体操の時間をもうけ、体を動かしたり大声を出したりのリクリエーションをしている。		体操、本の読み聞かせ、歌を唄ったり風船バレー等、色々と工夫しながら、短い時間であっても楽しいと思える時間作り。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が理解している人も使える様に、支援している機会や場面づくりが足りない。		理解が少しでもある人には、一緒にお店へ出かけて行きたいと思いません。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	車でドライブやレク行事、散歩等へ参加して頂いています。		外出する機会を増やしていきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者の安全が確保された上で、希望があれば行っています。		利用者の安全確保を考えた上で、可能な限り行っていきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	年賀状や手紙等、利用者に確認を行い希望があれば行っています。		年賀状や電話等(希望があれば)行っています。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族の希望により、利用者の自室で過ごされたりしています。その都度、利用者の状況等近況報告を行っています。		利用者の近況等おたよりでお知らせを行い、より利用者に興味を持って頂きたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の安全を考えた上で、利用者の自己実現を出来る範囲で行っています。		身体だけでなく、言動においても大きな拘束であることを忘れてしまいがちなので、もっとスタッフ同士の話し合いが必要であり、その事に気付ける取り組みをしていきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、利用者が自室で転倒、怪我が多いので、本人に説明、同意頂き日中はなるべく居間で過ごして頂いています。		本人が希望される場合は鍵をかける事もある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常時行っています。		スタッフの目の届かない部分を減らす様に心掛け、スタッフ同士声掛けを行い、より統一性の高い連携を目指す。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	出来る範囲にて自己管理して頂いていますが、出来ない方はホームにて管理を行っています。物品管理簿を作成しています。		取られた妄想、紛失が無い様に物品の把握を行っています。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	服薬時、スタッフ間にて声かけ確認を行い、誤薬予防に努めています。利用者に応じたケアプランを作成し事故防止に努めます。		防災訓練等を行い、万が一に備えていきます。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生や急変に備え、マニュアルを作成し研修、訓練を行っています。		定期的に訓練、研修を行っています。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練等を行い、災害時連絡網を作成、震度4以上でスタッフ一同集合することになっている。		地域の人達に協力して頂けるよう、今以上に交流の場を持つ。自治会への説明の機会をつくります。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプランに対し、説明、同意を頂く。要望があれば出来る範囲で実現を目指しています。		家族の居力なしでは、背負いきれない事もあるため、家族とはその都度綿密に話し合う取り組みをしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>便秘と脱水に気を付けています。チェック表を確認して便にたいしてはコントロール出来ない方もいるので、医師と相談しながら薬の使用を行う支援をしています。また状況によって職員が決めても良いと、医師の指示があるので適切に行っています。</p>		<p>これからもこの様な対応の仕方を継続して行きたいです。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の使用法に対して認識不足もありますが、利用者の使用薬をファイルして、スタッフが確認し状況に応じて医療機関と相談している。</p>		<p>薬の副作用、用法についても理解しこれからも利用者の症状の変化に気を配り、医師と連携を持って薬の処方をお願いして行きたいと思えます。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフ全員で取り組んでいます。便の薬やマッサージ等をさせて頂いています。又、食べ物や水分等で予防策に努めさせてもいます。</p>		<p>これからもこの様な対応の仕方を継続させて頂きます。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>どこまで手をかすか個人によって差をもうけた支援をしています。</p>		<p>これからもこの様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>その利用者に沿った食事量や水分量を把握させて頂き、必要な量を取って頂くケアをさせて頂いてます。場合によってはスタッフの介助で食事や水分を摂取して頂いてます。</p>		<p>これからもこの様な対応の仕方を継続して行きたいです。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>手洗いや消毒液を使用しています。掃除や感染予防の為に塩素系も使用させて頂いています。紙タオルの使用。</p>		<p>これからもこの様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	月に1～2回程度、冷蔵庫の掃除をしています。調理後の台所周りも毎回、その度に掃除をしています。		これからもこの様な対応の仕方を継続します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	その時の四季に合った装飾をしています。特にホーム内や玄関に対してはイベントの時の写真、四季に合った小物等を飾らせて頂いています。		この様な対応の仕方を継続して頂き、入りやすくなじみやすいホーム内にしていきます。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者のプライバシーにも考慮し落ち着いて生活出来る様、うるさすぎない飾りや不快に感じない照明等に気を付けさせて頂いています。		これからもこの様な対応の仕方を継続して行きます。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者がそれぞれ居場所を見つけられるようにしている。渡り廊下、長椅子。		2ユニットであることで自由に行動できるよう取り組みしている。
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族には本人が昔使用していたなじみの物を持ってきて頂き、本人の居室に設置させて頂いています。		この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気はこまめに行わせて頂いています。(台所付近、居室の空気洗浄、トイレ等)		この様な対応の仕方を継続させて頂きたいです。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー、手摺り等を設置しています。その方々の身体機能を考慮し、ヘッド、布団に分け転倒防止の為に、手摺りベッド、布団の横にはまた布団を敷くなど工夫しています。		六角テーブルの手掛け穴の使用で、麻痺の方でも自力で立ち上がりができる。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室前には写真、ネームプレートを貼り、その方の部屋だと分かる様工夫しています。		名札、写真、イラスト等で分かりやすい工夫をしている。
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	天気が良く暖かい日は敷地内を散歩して頂き、庭の花などを観賞して頂いています。		花を植えたり、野菜を植えてそれを取って食べる等の工夫をしている。

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 一緒に散歩をしたり、体操、お話しをしたりする。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない 重度化により戸外へ行く機会が少なくなりつつある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまたま ほとんどない</p> <p>いつ誰が来られても説明出来る様にしている。</p>
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98 職員は、生き生きと働いている	<p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>全員と言える様にしてゆきましょう。</p>
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

2ユニットで職員同士を半日、又は1日移動する事で相互の入居者を理解し緊急時等、速やかに対応できる様にしている。